

# 野の仏さまにおききしました

2023.3.13 (月) N09

## 水鎮めの仏



磐船四社明神

=磐船の神話=

「先代旧事記天孫本記」に天祖、天爾(じ)瑞宝十種を以て、饒速日尊にぎはやひのみことに授く、則ちこの尊、天祖御祖てんそおやの詔みことりをうけ

天の磐船たけるに乗って、天降り、河内の国河上いみの喙すなはちが峰みねに座す。これは饒速日尊の渡来説である。



そのはじめ、饒速日命を祭神とした磐船神社はじめ交野村々の氏神は、平安時代頃から、すべて住吉神を祭神とすることに変わった。住吉神社の御祭神・底筒男命、中筒男命、表筒男命に、息長帯姫命(神功皇后)を含めることがある。

妻・伊弉冉尊を追って黄泉の国に行った伊弉諾尊は、変わり果てた伊弉冉尊の姿を見て慄き、黄泉の国から逃げ帰ります。黄泉の国で負った穢れを払うために、伊弉諾尊が海に入って身を清めた際、海底から底筒男命が、海の中ほどから中筒男命が、海上から表筒男命がお生まれになりました。

海上安全のご利益がある住吉三神は、海から生まれた神様です。

=明神なのになぜ仏の姿が=

平安初期になると宇佐八幡の神を大菩薩と呼ぶようになり、仏教の側からこんな理屈が出てくる。

村人・・・どんな理屈なのか

野の仏・・・「神といっても、元をただせばみな仏。仏が日本人を救ために、神の姿で現れたのだ」

村人・・・つまり神というのは、仏が本来の姿なのですか

野の仏・・・仏の姿が「本地」で、人々を救済のために神という仮の姿で現れることを「垂迹」という。

村人・・・これを「本地垂迹」というのですか

野の仏・・・また逆に神が本地で仏がその垂迹であるという、「逆本地垂迹説」も出てくる。

村人・・・磐船四社明神は「逆本地垂迹説」なのですか？

野の仏・・・神と仏が、絶妙というより奇妙なかたちで結びつけられていったのです。

こうしてあいまいだった神と仏の境界はついに見えなくなり、神と仏は合体してしまうのである。

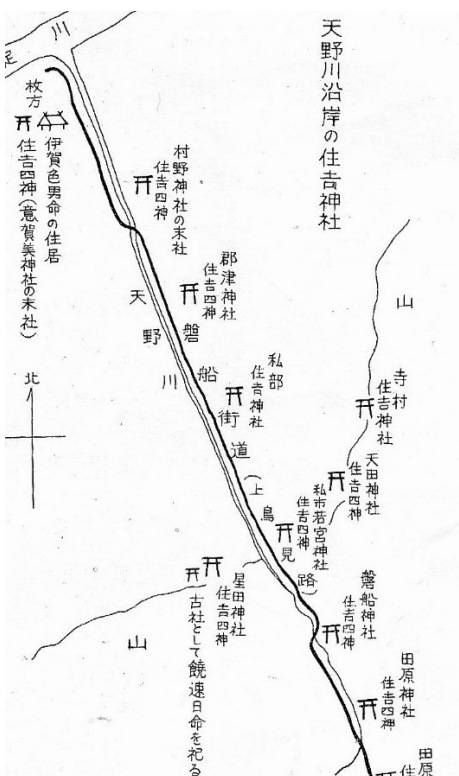
これを「神仏習合」あるいは「神仏混淆」という。

習合とは、もともと異なる二つ以上の教養や教理が結びついて融合調和することをいう。

村人・・・神社の境内にお堂があったり、お寺の入り口に鳥居があるのは

野の仏・・・平安時代以降になると、神社の境内に本地堂や護摩堂が建てられ、社殿には僧形八幡神像に代表されるような僧の姿をした神像や、神本来の姿であるという仏像が祭られるようになって、僧が神前読経するまでになる。

このようにして明治維新にいたるまで、神と仏は絶妙かつ奇妙なコンビを組むのである。



天野川沿岸の住吉神社

勢至(弥勒?)

十一面観音

阿弥陀如来

地藏菩薩

村人・・・大雨が降った時など、大洪水となり境内の橋を越し、道にあふれ、登坂を滝のように流れ大変困った

野の仏・・・磐船神社の御神体である船形の大岩とともに「水鎮めの仏」として水運を守って下さっている。

そして、こんなお話も信仰では、神まつりは、山・野・川・海などのとくに浄らかな場所を選んで行われた。

神が降臨すると考えられた岩や石(磐座。巨岩の場合もあれば、小さな石であることもあった)、神聖な樹木を中心に、それを囲む空間に神迎えの施設(磐境、神籬<sup>いわさかい ひもろぎ</sup>)をつくって神をまつった。

ここはそんな場所と野の仏さんがおっしゃった。

村人・・・私も一言、今回の川と四社明神うまく撮れました(得意の自画自賛)

川の中に入り、岩と岩の間から明神に光があたるのを待ってシャッターを切った1枚

あぁ～新磐船トンネルと新天野川トンネルの開通で交通渋滞、洪水による水害も解消されました。



新磐船トンネル

いかるが橋

新天野川トンネル

=了=